

# 研究課題

# 小・中学校の継続性・系統性ある教育活動の推進

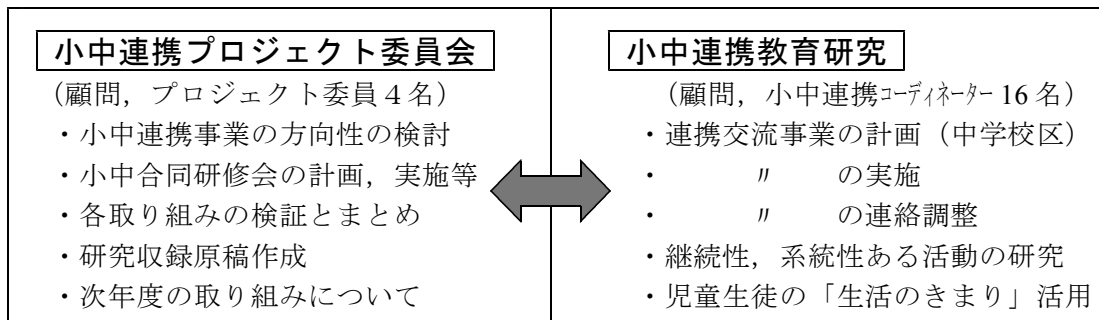
## 1 基本方針と研究推進の方向性

### 1 ねらい

- (1) 小中学校の指導法の継続性、学習内容の系統性のある教育活動を推進し、教育活動全般における教育効果を高める。
- (2) 小中学生の異年齢交流により、児童生徒の社会性や感性を育む。
- (3) 小中学校の教員が、それぞれ異校種における教科指導や生活指導等を経験し情報交換することにより、発達段階に応じた教育内容や指導方法の工夫ができるようにする。

## 2 研究内容

- (1) 小中連携コーディネーターを中心に、交流授業、教員1日交流、小中合同研修会を企画実施し、自校の教育に生かす。
  - ① 小中それぞれの教育観、教育活動を知る。
  - ② 教科内容の系統性を確認する。
  - ③ 互いの指導法の良さを知る。
- (2) 教員の積極的な交流を図り、生活面における児童生徒の適切な指導について共通理解を図る。
  - ① 児童・生徒指導の継続性について、情報交換する。
  - ② 個人情報の有効活用によって、個に応じたきめ細かな支援を円滑に接続する。
- (3) 異年齢の子どもがふれあうことにより、社会性など様々な感性を育む。
  - ① 児童・生徒が環境の変化に対応できるよう、柔軟な心づくりに努める。
  - ② 小学生が安心して中学校へ進学できるよう、早期より中学校の教育活動内容に慣れるよう工夫する。
  - ③ 小中合同で活動する授業を取り入れ、思いやりやあこがれの気持ちを育て、子どもの主体的な活動の活性化を図る。



児童生徒のよりよい成長のために

教職員間の連携強化	児童生徒の交流
<p>☆小中学校の教師が連帯感を持ち、小中学生を育てようという意識を持つために</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○教職員の交流① (1日交流：中学校区における交流)</li><li>○教職員の交流② (小中合同研修会)</li><li>○研究授業等の公開 (参観交流：学区問わず)</li><li>○「生活のきまり」の活用 →9年間の段階に応じた、継続的指導</li></ul>	<p>☆小学生にとっては中学校への不安感をなくしスムーズなつながりができるように、中学生にとっては、自己有用感を持たせるために</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○合唱等の発表会</li><li>○6年生への中学校案内</li><li>○出身小学校での合同清掃・美化活動</li><li>○合同あいさつ運動</li><li>○中学校体育祭・文化祭等への小学生の招待</li><li>○部活動体験</li><li>○小中合同授業・体験授業</li></ul>

## 2 具体的な取組

### 1 中学校区における連携研修の実施

#### (1) 小中教員交流研修

##### ① 中学校教員→小学校において1日体験

###### 【感想】

- ・小学校の先生方のきめ細やかな指導を見習わなければならない。小学校の先生方は、できないからできるようにするという意識の中で取り組んでいる。また、「折り合い」をつける訓練にもなる言語活動の充実は中学校でも大切だと感じた。
- ・小学校は短時間で個別の児童指導を行っていて、学級担任が児童をよく把握していると思った。小学校の先生方のきめ細やかな指導を、今後の学級経営に生かしたい。少人数ならではの温かな雰囲気があり、1年生から6年生まで全員で取り組める環境は児童に安心感を与えていると思った。
- ・小学校での細やかな指導が見られ、中学校でも継続性を持って進めていきたい。先生と児童の距離が近く、先生に対しての信頼も大きいものだと思う。各教科においても、学習訓練が行われていて、そのスキルを中学校でも活かしていかななくてはならないと痛感した。
- ・児童は挨拶をきちんと行っていた。基本的な生活習慣の形成に関しては、小中学校連携して、今後も行っていくべきだと感じた。算数の授業でT1として授業に参加し、課題の過程を考えさせる授業を行ったが、細かい過程が書けない児童もいた。中学校の数学では、課題を解決するための過程が必要になるので、授業においてもより良い連携が図ればよいと感じた。
- ・低学年の授業では、個人差が大きく、全体を指導しながらも個に対応していくのはとても大変なことだと感じた。また、小学校での細かく丁寧な指導のベースがあって中学校での生活が成り立っていることを実感した。
- ・生活指導面で、小中で同じ方向性を持って指導していくことが望ましいと感じた。また、担任だけでなく、学校全体で児童生徒を見ていくことが大切なことであると思われる。
- ・目立っていたのは発達障害の疑いを持つ児童。対応が難しい児童であるため、小中で連携を取る必要性を感じた。
- ・それぞれの発達段階に合わせた丁寧な支援、継続性のある支援・指導がなされていた。最上級生として活躍している6年生の様子から、中学校でも1年生ではなく、7年生として自覚を持たせていく必要があると感じた。
- ・小学校で大切に育てていただいた児童を引き継ぐことになるので、今後も積極的な情報交換や小中交流を行い、継続した支援、また、先を見通した、足並みを揃えた就学指導につなげていければと思った。
- ・礼儀正しくルールやマナーをしっかり守っている子どもたちの姿をみると、中学校でもその姿を大切にしたいと改めて思った。授業中も少人数だからこその授業展開となっていて、誰もが意欲的に取り組もうとする姿勢を大人数になっても形を変えてできれば、もっとやる子とやらない子の意欲の差がつけられるのではないかと考えた。
- ・小学校の現場で授業をT2で参加したり、児童と交流したことがなかったので、とても新鮮だった。児童指導に立ち会うこともできたが、担任だけの指導にとどまることなく、学年全体で話したり、指導したりしたので、中学校の生徒指導と同じだと思った。
- ・ほとんどの児童が、板書等をノートによくまとめ、意欲的に学習に取り組んでいた。休み時間のドッジボール大会やプールの授業をととても楽しみにしていて、元気よく活動していた。
- ・児童達はとても元気で、楽しんで学んでいる様子が見られた。授業中も自分の考えを述べやすく、とても居心地の良さを感じているのが分かった。
- ・小学校での6年間の生活指導や学習指導の大切さ、先生方の指導の細やかさなどを感じることができた。基本的な生活習慣も、毎日細かいところまで手取り足取りあきらめることなく指導している。

## ②小学校教員→中学校において1日体験

### 【感想】

- ・中学生の実態や中学校での取り組みがたくさん見られ、とても勉強になった。どの教科においても、小学校で学んだことが生かされたり、活用したりしていた場面が多かった。小学校で学習していることが中学校で生かされていることを子どもたちにきちんと伝えたい。
- ・中学校は、小学校以上に制約された時間の中で多くの物事を進めなければならない前提があることを改めて痛感した。「6年担任の現段階で、子どもたちにできることは何か」という問いを自分で持った。「チャイムで時間内に」「1時間ごとのねらいを大切に」「この時間にできることを見据えながら」子どもたちを指導していくことが大切であると思った。
- ・中学校に入り、運動に勉強に熱心に取り組む姿はとても感心させられた。小学校が目指す方向性が見えてきた。中学校に必要な姿勢や態度について残りの小学校生活で身に付けられるよう指導したい。
- ・小学校で自分が担任して教えた生徒たちが、中学校の先生方より専門的な指導の中で力を伸ばし、元気に生活していたことを非常に嬉しく思った。生活指導の面では、指導の方針を学年等でこまめに打ち合わせすることで、どの先生も同じ指導ができるようにしているのを聞き、自分もそのようなことをより意識して指導していきたい。
- ・先生方の話し方や接し方は、思春期の生徒に対して程よく距離を保ち、伝えるべき事はきちんと伝え丁度良いと感じた。適切な指導が生徒の自主性を伸ばしているように感じた。6年生の頃とは、表情も内面も大人になった1年生の様子を見て、小学校で必要な指導、中学校で必要な指導の違いや大切さを感じた。
- ・コの字型の座席配置で行っており、ペア学習がしやすいように工夫されていることを知った。学習だけでなく、あいさつや給食のマナー、清掃の仕方等、生活面でも小学校から指導し、継続することが必要だと感じた。
- ・小学校よりも、英語の習得に重きを置いているため、生徒がより確実に英単語やキーセンテンスを習得できるよう、声に出して読んだり、ノートに書いて覚えたりする機会を多く設けていた。課題意識がぶれないよう教師自身が授業の中で勝負する意識を強く持っている。
- ・体育・数学ともにT2で参加させていただいたが、子どもたちは最初は人見知りして近づいてこなかったが、少し話しかけると色々話しかけてくれ、交流ができて良かった。
- ・どの教科においてもグループ活動を意識して授業されており、教材研究に大変時間をかけていると感じた。中学生が話し合い、教え合い、生き生きとしている姿を見ると嬉しくなった。挨拶をしっかりとる、3分前行動をする、清掃は黙ってやる等、大変成長を感じられるところである。
- ・印象深かったことは、あいさつ、移動、清掃、待機中の生徒の様子であった。全て上級生の指導が行き届いており、それに習うことで学校全体がきまりを守る雰囲気となっている。小学校でも、高学年が見本となることが最重要であると改めて感じた。
- ・朝から、気持ちよいあいさつで中学生が迎えてくれた。中学生の授業態度も良かった。学校全体で「学び会い」に力を入れており、グループで協力しながら学習を進めるスタイルが定着していた。
- ・中学校での授業や生徒の生活などが分かり、とても良い機会となった。小学校から中学校へつなげられるように、学業指導や生活面での指導において心がけることが見えてきた。

(2) 小中教職員合同研修会

中学校区	実施期日等	会 場
南河内中学校区	7月31日(水)	南河内東公民館(研修室)
南河内第二中学校区	8月6日(火)	道の駅しもつけ(研修室)
石橋中学校区	8月1日(木)	石橋中学校
国分寺中学校区	7月31日(水)	国分寺東小学校

【各部会による情報交換の評価】 4(高) ←→ 1(低)

	4	3	2	1	無記入	計
小学校	86	48	2	0	8	144
中学校	37	29	0	0	3	69
無記入	0	0	0	0	2	2
計	123	77	2	0	13	215
%	57.2	35.8	0.9	0	6.1	

【講話の評価】 4(高) ←→ 1(低)

	4	3	2	1	無記入	計
小学校	24	30	10	0	1	65
中学校	20	19	4	1	0	44
無記入	0	0	0	0	1	1
計	44	49	14	1	2	110
%	40	44.6	12.7	0.9	1.8	

【感想】

- ・いろいろな面から小中連携が図れてよかった。
- ・学習内容の系統性を確認したり、課題を明らかにすることができた。小学校で基礎力をつけて中学校へつなげていくこと、教科の系統性を理解して指導することが大切であると改めて感じた。どこが困っているところなのか、中学校の先生に聞くことができたので、そこを重点的に指導して中学校に送り出したい。
- ・小学校の先生が中学校の英語の模擬授業を体験する、中学校の先生が小学校の教科書を見るなどできるとよい。
- ・中学校の教科専門の講話、講習、授業支援があるとありがたい。
- ・中学校での自主学習の取り組み方がわかった。高学年の自主学習の指導に生かしたい。
- ・事前準備資料「学区のよさや課題」を持ち寄っての話し合いだったので、問題意識をもって参加できた。それぞれの意見に対し共感することも多く、とても勉強になった。
- ・小学校間での情報交換ができ、大変貴重であったが、部会に中学校の先生がいなかったことは残念であった。小学校教員として考える「つながり」について話すことは有意義であった。
- ・小中それぞれの発達段階に即し、何をどのように行っていくのがそれぞれの役割を果たすことにつながるかを共同で考えることができた。
- ・特別活動の取り組みについて各校の様子を知り、参考になった。委員会活動、クラブ活動、縦割り班での活動などの小中連携も必要だと思った。中学校が望むリーダーと小学校で考えるリーダーはずれがあり、考えていく必要があると思う。小学校では、中学校で求めるリーダーになるための素地を育てる工夫と努力をしなければと思う。

- ・中学生、中学校の実態にふれるきっかけになり、勉強になった。小学校での問題は中学校につながっていることも分かり、しっかり小学校のうちに指導しなければならないこともあると思った。(携帯電話の正しい利用の仕方)
- ・小学校の低学年～高学年までの指導の仕方が異なり、工夫していることがわかった。基本的な生活習慣を身につけることは、どの学年を通じても行っていかなければ、なかなか身につかないことだと感じた。小学校の成長の様子をもっと知ることができれば、中学校の指導に役立てられると思った。
- ・こういう場でなくても情報交換できるようになるとよい。たとえば気になる児童生徒の家庭環境や、小中共通のあるいは協調して問題解決を図っていきたいことなど。プチ情報交換でもよいので継続していけることが大切。
- ・小中連携で出していただいた「生活のきまり」が大変ありがたい。あいさつ、靴箱の指導など、「生活のきまり」の具体性を生かして指導している。
- ・講話で、小中の連携により9年間を生き生きと活動する様子がたいへんよくわかった。「小中連携で無理に何かを作り上げるのではなく、小中の先生方が一緒にいる時間を持つことが大切」まさにそうだと思った。
- ・小学校とはあまり関係のない話に思えたが、子どもたち一人一人とじっくり関わることや面談の有効性等、小学校教員にも大切なことをたくさん学ぶことができた。学力向上のために行ったのが学習指導ではなく面接指導であったということが衝撃的であった。



## 2 中学校区における児童生徒の交流事業の実施

### (1) 南河内中学校区での交流

① 中学校授業参観 (小学6年生児童保護者向けにも公開) 11 / 16 (土)



児童45名、保護者30名の参観となり、関心の高さが窺えた。  
「中学校は大変だと思っていたけれど、楽しそうな授業だった。」  
「入学するのが楽しみになった。」

<保護者と一緒に授業参観>

<廊下からのぞき込む児童も>

② 下野市子ども未来プロジェクト事業啓発 12 / 4 薬小 12 / 5 吉西小 12 / 9 吉東小



小学生に分かりやすくするために、劇仕立ての説明を考え、実践した。  
後について言ってください。  
「支え合い、はい」「支え合い、はい」  
「わかり合い、はい」「わかり合い、はい」  
「心の輪を広げよう、はい」  
「心の輪を広げよう、はい」



<生徒会本部役員による臨時集会での説明>

③ 中学校授業体験と中学校説明会 12 / 17 (火)



生徒会役員が事前の質問事項への回答も含め、わかりやすく説明しました。  
「中学校での不安が減り、楽しみになりました。」  
「中学校のことがいっぱいわかってよかったです。」  
「先輩たちが優しくてすごく楽しく授業ができました。」

<6年生と中学1年生 数学>

<中学校の学習や生活について説明>

### 《成果と課題》

- ・今年度は中学校説明会に合わせて、1年生の授業に6年生が加わり、授業体験を実施した。6年生は、授業を体験し、中学校の学習や生活の様子をイメージすることができたと思われる。中学校は小学校の延長上にあることを実感したり、不安を軽減したりする機会として非常に有意義であったことがアンケートからも分かった。
- ・中学生にとっても、6年生をリードしたり気を配ったりして授業を受けた経験は、中学生としての成長を実感し、自信をもつことができた。また先輩になるという自覚をもつ機会となった。
- ・授業体験や「子ども未来プロジェクト」啓発のための小学校訪問がスムーズに実施できたことから、各学校の小中連携への理解が進んできたことを実感した。夏の合同研修会において、教科担当者で話し合ったが、合同授業を実施したことでより具体的なイメージになったかもしれない。研修で合同授業をプログラムして実践することも、興味深いものだと思う。

## (2) 南河内第二中学校区での交流

### ①小中交流音楽集会 10月30日(水)

南河内第二中合唱コンクールで金賞・銀賞になった3年生と2年生の4学級が、祇園小と緑小で合唱を披露した。各小学校からは歌のプレゼントやお礼の言葉をいただいた。



〈中学生による合唱曲の披露〉



〈小学生代表者による感想発表〉

### ②子ども未来プロジェクト説明 11月25日(月)・26日(火)

3年生の生徒会役員5名が小学校に行き、プロジェクトの内容を寸劇にして分かりやすく説明し、実践を呼びかけた。



〈寸劇を披露する中学生〉



〈小学生代表によるお礼の言葉〉

### ③新入生保護者説明会 12月12日(木)

祇園小と緑小の6年生、保護者が合同で二中体育館にて中学校の説明を聞いた。その後、2年生教室や武道場で授業体験を行った。



〈2年生による歓迎の合唱〉



〈寸劇で紹介する二中の1日〉



〈数学の授業体験：負の数〉

### 《成果》

- ・合唱の交流は3年目ということもあり、時間的にもスムーズで、よい交流ができた。小学生にも合唱の素晴らしさが伝わった。中学生は一部の生徒の交流であるが、小学生への発表があるということで合唱への意欲に繋がっている。
- ・中学校を会場とする説明会であり、授業を通して直接先輩と触れあうことができたため、小学生は中学校の様子を具体的に理解でき、中学校を身近に感じるようになった。中学生も小学生に合唱披露や説明をすることで先輩としての自覚や充実感が味わえた。

### 《課題》

- ・全学年が交流できるような活動を実施していきたいが、小中学校同士の目的や時間、場所や内容の調整が難しい。

### (3) 国分寺中学校区での交流

- ① 6/21 (金)：国分寺中合唱コンクールを国分寺小6年生見学
- ② 6/24 (月)：国分寺小音楽集会参加 (国分寺中3年生による合唱発表など)
- ③ 6/25 (火)：国分寺西小音楽集会参加 (国分寺中2年生による合唱発表など)
- ④ 6/27 (木)：国分寺東小音楽集会参加 (国分寺中2年生による合唱発表など)
- ⑤ 11/7 (木)：国分寺中保健委員会と国分寺小健康委員会 (5・6年生) による活動  
「国小健康委員会の子といっしょに手洗い実験をしよう」
- ⑥ 12/3 (火)：下野市子ども未来プロジェクトの発表  
国分寺小の全校集会において生徒会本部役員の劇による説明
- ⑦ 12/9 (月)：下野市子ども未来プロジェクトの発表  
国分寺東小の全校集会において生徒会本部役員の劇による説明
- ⑧ 12/10 (火)：下野市子ども未来プロジェクトの発表  
国分寺西小の全校集会において生徒会本部役員の劇による説明
- ⑨ 12/12 (木)：新入生オリエンテーション (国分寺中へ各小学校の6年生が来校)  
生徒会本部役員による新入生への中学校説明会と授業体験など  
中学校授業参観 (小学6年生児童保護者向けにも公開)
- ⑩ 国分寺小・国分寺中合同による朝のあいさつ運動 (月に1度・火曜日から金曜日の4日間)
- ⑪ 国分寺小のクラブ活動における国分寺中の校庭貸与 (月に1度)



〈国分寺小における合唱の発表〉



〈国分寺東小における合唱の発表〉



〈国分寺西小における合唱の発表〉



〈小中合同による朝のあいさつ運動〉

#### 《成果》

- ・隣接する国小・国中の交流はさかんで合同のあいさつ運動は、今年度で4年を経過した。あいさつ運動をはじめ昨年度までの交流をすべて継続しただけでなく、今年度は、新入生オリエンテーションにおける小学生の授業体験など新たな試みがいくつか付け加えられた。

#### 《課題》

- ・数多くの交流を継続して実施していくために、小中同士の時間の確保や場所、内容の調整等が難しい。また、児童・生徒の移動における安全確保も課題である。



〈小学生の授業体験〉



#### (4) 石橋中学校区での交流

「入学説明会」において中学1年生が6年生及び保護者に対して学校行事や部活動・生活の決まり等について説明をし、その後、各学級に分かれ交流学习を行った。中学生がリードしながら楽しく学んでいる姿が見られた。

##### 《成果》

- ・小学生は授業を「見学」するのではなく「体験」することで中学校の教科学習について理解を深めるができると同時に、授業に対しての不安を取り除く一助になったと思われる。
- ・中学生は6年生に対して「教える・助言する」という経験を通して中学生としての自覚がさらに高まったと思われる。

##### 《課題》

- ・教室の収容人数を考えると中学生・小学生と一緒に教室にて授業を行うのはに困難である。
- ・教育課程上、小学生と共通の教材で授業を展開することは難しいため、50分間の特設授業を実施することになるのが現状である。

### 3 英語・外国語活動を通じた交流

- ・石橋小学校の6年2組と石橋中学校の1年4組が英語の授業を石橋中学校英語室にて合同で行った。今回は新たに独自の指導案を作成し実践する試みが行われた。中学校生活や中学校の先生方の紹介などについて、中学生が小学生をサポートし、様々な活動を行った。



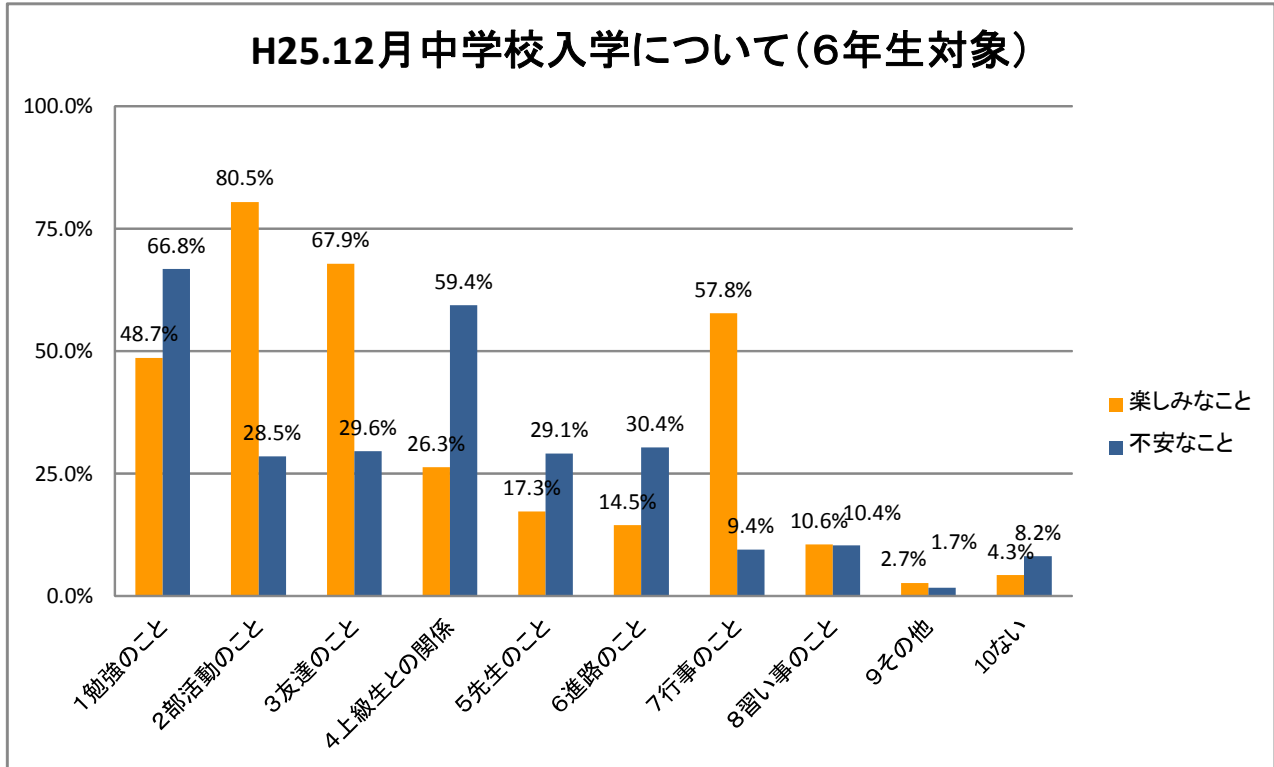
- ##### 《成果》
- ・中学校に関する様々な活動を通して、中学生が小学生をリードし共に活動を楽しむことができた。互いにコミュニケーションを取りながら打ち解け合うことで、中学校への不安や抵抗感が解消されてきた感があった。中学生にとっても後輩を大切に思い、先輩となる自覚も持つことができたように思われた。

- ##### 《課題》
- ・今回は独自に指導案を作成して授業に臨んだ。それにより様々な授業の可能性を見出すことができた。ただ、指導案を作成する際に、中学生と小学生が生き生きと活動し互いに交流できるよう、それぞれに適した活動内容を考えることが大切であると感じた。
  - ・交流事業に向け準備や練習の時間がとればよいが、時間的な問題や先生方への負担を考えると実際には難しいのが現状である。そのため、できるだけ負担のかからないよう授業内容を選択・工夫する必要がある。

- ・新入生説明会に当てて実施したため、生徒の移動手段の問題について容易に解決することができた。生徒の安全面を考慮し、今後もこの行事と合わせて実施していくと良いと感じた。

#### 4 児童生徒へのアンケートを通じた実態の把握

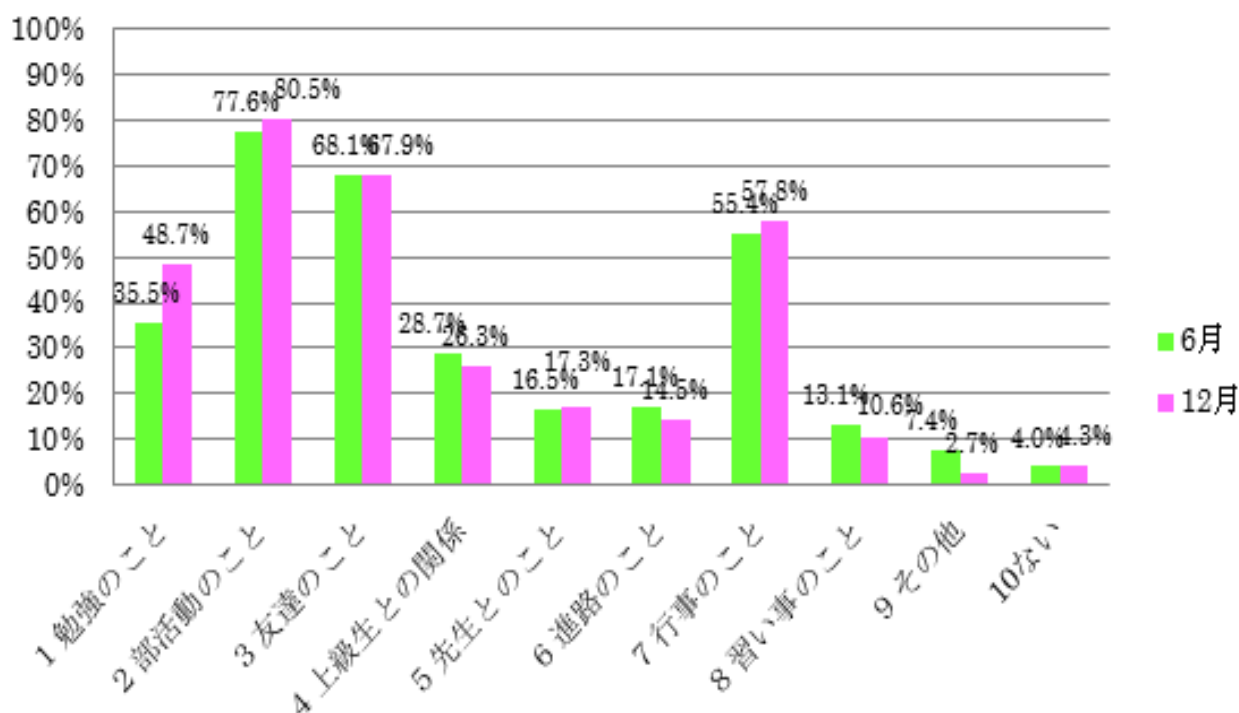
昨年度に続いて、小学6年生には中学入学について、中学1年生には入学後の学校生活についてのアンケートを実施した。6月と12月に同じ内容で実施し、児童生徒の変容も考察したいと考えた。



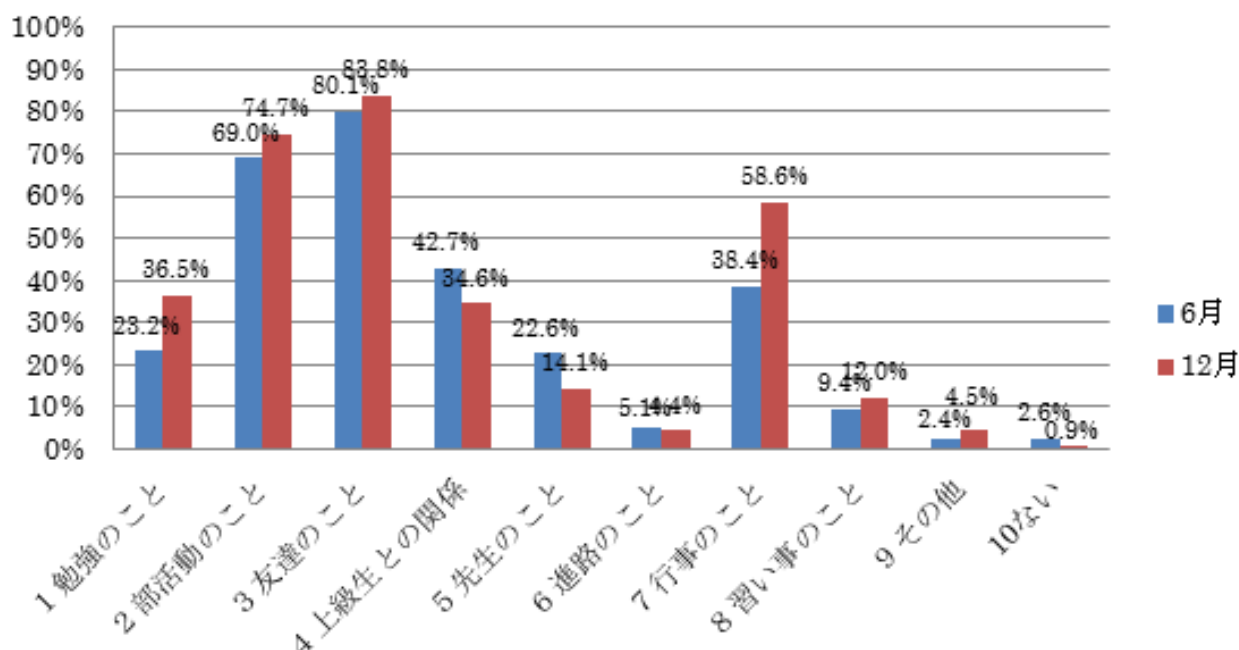
##### 〈6年生の結果より〉

- ・昨年度と同じような結果が得られた。勉強や上級生との関係を心配する姿がうかがえる。しかし、勉強のことを楽しみにしている割合が昨年度に比べて12%ほど増え、半数近くになっている。すべての中学校で入学説明会において体験授業を取り入れた成果であると考えられる。
- ・楽しみなことは部活動のことが最も多く8割の児童が部活動への期待や意欲を持っていることがうかがえる。また、友達のことや行事のことを楽しみにしている児童が半数以上いる。不安もあるが、それ以上に楽しみにしていることもあることがうかがえる。

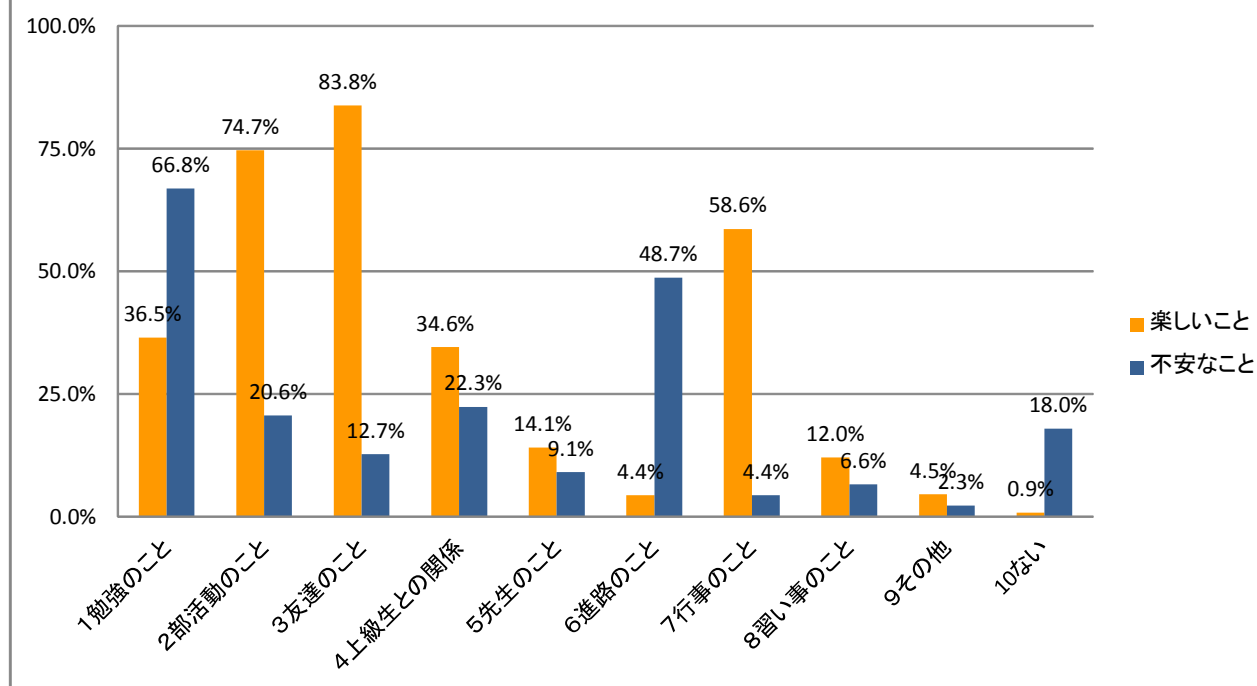
## 小学6年生：中学校生活で楽しみなこと



## 中学1年生：中学校生活で楽しいこと



## H25.12月中学校生活について



### 〈中学1年生の結果より〉

- ・昨年度と同じような結果が得られた。勉強への不安はまだ大きく半数を超える生徒は持っているものの、勉強を楽しいことにかけている生徒は6月に比べて約13%増えている。
- ・友だちへの不安についても6月より数値が下がり、特に友だちとの関係を楽しみに考える生徒が8割を越え増えていることが分かる。
- ・進路について不安を持つ生徒が入学前の2倍近くに増えている。中学1年生の6月の実施では約25%だったのが、12月では約50%と増えていることが分かる。

## 3 成果と課題

- 【成果】・教員の「1日体験」研修は、今年度で4年目となる。異校種の学校での体験から、具体的に指導法の違いや子どもたちへの対応の違いを知ることができ、理解が深まることはもとより、小中それぞれの役割や小中9年間のつながりを再確認する機会ともなっている。
- ・教職員小中合同研修会において、学習や生活等について情報交換を行い、相互理解をすることができた。事前にテーマを設定して協議を行った学校区があり、深まりが見られつつある。またその必要性を実感した教職員が多かった。
  - ・市内全中学校において、入学説明会の際に小学6年生が中学生と共に中学校での授業を体験し交流する活動を実施した。説明を聞くだけでなく体験することにより、中学校での生活をより具体的にイメージでき、不安を払拭する良い機会となった。
  - ・下野市子ども未来プロジェクトが中学校の生徒会を中心に推進され、児童生徒自身がお互いを身近な存在と感じられるきっかけとなった。
- 【課題】・教員の「1日体験」研修で、中学校教師が小学校において教科の専門性を生かしT1で授業を行う機会を設定することが望まれる。
- ・教職員の合同研修は中学校区ごとに地域の実態に応じて協議の内容や部会の構成を検討する必要がある。
  - ・中学校区ごとに作成した「生活のきまり」の活用が十分でなかったとの反省点があげられた。小中9年間を見通した生活指導のスタンダードとして活用が期待される。